『市民委員会活動』シリーズ2

平成11年度に市民委員会として認定された3団体の活動内容をご紹介します。第2回目の今回は、本市の文化遺産である、お茶壷道中・お茶蔵に関する研究、調査を行い、今後の文化遺産の伝承と研究、観光事業活性化を目的とする「お茶壷道中研究会」の概要です。

(1)文化による地域の活性化

地域の活性化にとって「経済」(物質)と「文化」(精神)が両輪となって、相乗的に発展していくことが最も望ましく、本物の文化を創造していくためには、その地域の歴史と地理とによって形成されていく「独自性」に着目することが必要です。本市の「独自性」において、歴史的には谷村藩の存在が最も大きなものであり、勝山城に「茶蔵」が存在し、「お茶壷道中」が谷村に立ち寄り、特別の役割を果たしていた事実があります。徳川時代、約500に達した藩の中で、「茶蔵」を所有していたのは、谷村藩の勝山城だけなのです。本市で、「文化による地域の活性化」を考えていく場合、この谷村勝山城の独自性をいかした文化行事をおこなわないという手はないでしょう。

※「お茶壷道中」とは、江戸幕府が将軍のために、毎年、宇治へ採茶使を遣わして将軍家御用達のお茶を江戸と宇治間で運ばせた行列をいい、寛永十年(1633)に制度化されたといわれています。新茶の季節になると、空の茶壷が江戸から東海道を行列して京都の宇治に至り、宇治で新茶を茶壷に封納し、帰路は東山道(後に中仙道、中山道と改称)、甲州街道を経て谷村に立ち寄り、「茶蔵」に茶壷を格納して、約半年間熟成を待ち秋になって江戸城に搬入したとされます。

(2)歴史的考察【お茶壷道中が執り行われた時代だけをとり上げ、次のことを研究・調査しました】

①お茶壷道中の意義　②都留市との関わり　③勝山城の茶壷蔵造営時の時代背景　④お茶壷道中の終焉

(3)関連都市における状況

お茶壷道中の主要関連都市である宇治や京都などへの取材と、その都市のお茶壷道中に関わる現在の状況を報告し、新しい「まちづくり」の提言とする。

○宇治市　日本を代表するお茶の産地と世界遺産の平等院鳳凰堂など歴史財産を持ち合わせる都市

○京都市　お茶壷道中をテーマとしたイベントを実施している都市

▼「昭和新版　お茶壷道中」〔昭和48年(1973)～〕

毎年八十八夜にあたる5月2日に、建仁寺から八坂神社に新茶を担いで献納

▼「東海道五十三次　お茶壷道中」〔平成5年(1993)〕

平安建都1200年プレイベントとして、15日間、約530kmをリレー方式で昔ながらの装束で歩いた。

(4)今後のお茶壷道中研究会の提案事業計画

市民各自が郷土史の理解と「まちづくり」に積極的に協力できる体制作りを願い、次による当研究会の提案事業計画を作成した。

1、文化事業

①鉄道唱歌における中仙道、甲州街道のお茶壷道中再現　②全国的規模のお茶に関する事業を実施

③郷土史の再認識　④東照宮の再認識

2、観光事業

①勝山城の完全発掘の実施　②茶壷踊りの開催　③観光都市実現へのシンポジウムの開催

3、まちづくり

①郷土史に触れる機会　②市制50周年を記念して

4、関連都市との交流

①街道からの関連都市　②人物背景からの関連都市　③お茶・茶壷からの関連都市　④茶壷蔵の関連都市

⑤関連都市との交流状況と提案

(5)お茶について

お茶壷道中を調査するうえで、お茶の歴史と武家社会における茶の湯の関わり、またお茶の種類についての知識が必要となることから、それらについての研究・調査を実施。

【平成12年度市民委員会募集中】

市では、市民委員会として活動する団体・グループを募集しています。市民の視点で考えるユニークでアイデアあふれる「まちづくり」に関する積極的な活動をお待ちしています。

問合先　政策形成課　政策担当